

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000565		
法人名	医療法人社団 豊生会		
事業所名	グループホームすぎの子の郷		
所在地	石狩郡当別町春日町97-1		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町村受理日	平成23年2月25日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://77.system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0171000565&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

札幌近郊にあり、自然豊かな環境にあります。ホームはベランダからの日差しで全体的に明るく、ゆったりと過ごせるように、居間・廊下にソファ等を置き、一人でも過ごせる空間がある。毎日の食事メニューはなく、職員の技量と季節の旬の材料と、入居者の気分で提供させて頂いています。本当の家庭の主婦の食事を提供し、職員も食事は一緒に頂いています。行事も多く、季節を感じてもらえるように、企画を職員が計画し、少しでも、「五感の刺激」につながる時間になるように、職員で取り組んでいます。職員は明るく、専門性の向上に努め、認知症ケア専門士やタクティールケアの技術取得者もいます。更なるサービスの質の向上を目指して、努力しています。開所して5年になり、地域への理解も少しずつ浸透し、交流も多くなり、「郷」の行事を楽しみにしてくれる家族様もおられます。これからも積極的に計画、実施して、入居者さんからたくさんの「笑顔」があるホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かで閑静な住宅街に位置しており、JR駅に近く利便性にも恵まれている。建物は2階建てのユニットで、室内は広く明るく利用者の安全と快適さに配慮された造りになっている。運営母体は医療法人で、病院、介護関係の施設を多数経営しており、運営、人事、研修など互いに連携し、相乗効果が見られる。事業所にはデイサービスと居宅介護事業所が併設され、地域の高齢者ニーズに柔軟に対応している。職員は日々研鑽し、内外の研修を受講し、専門性を高め、センター長、管理者の良好なチームワークのもと、質の高い介護を実践している。利用者のもてる力の維持増進に配慮し、排泄の自立に成功する例もあり、一人ひとりの生活の質の向上に努めている。利用者の表情は穏やかで明るい。家族へは、情報誌「さたどり」を送付し、常に連絡をとり信頼関係を築いている。ヘルパー取得の実習生受け入れ、高等養護学校生徒の体験学習指導なども行っている。運営推進会議は、行政の担当課職員、包括支援センター、医師、消防署員が出席して、家族と共に、防災、行事、運営、健康について話し合い、専門家とも意見交換できる貴重な場となっている。地域との関係については、双方向の交流があり、地域の祭りや行事を人々と共に楽しむ他、地域主催の認知症サポーター研修に協力するなど、地域福祉については啓蒙的役割を担っている事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を提示し、各自携帯用もあり、ケア理念にあったサービスを提供しようと実践に向けて取り組んでいる	「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに、家族や地域と共に」の事業所理念を策定し掲示している。理念は職員のネームプレート裏にも入れて携帯し会議等で話し合い共有し実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	継続されている町内の行事にも参加し、ホームへの理解も得られている、入居者の顔も覚えてもらえる関係が出来つつある	町内会行事や清掃作業に協力している。近隣の養護学校の体験学習受け入れやボランティア訪問、保育園の運動会見物があり地域との交流は盛んである。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの講座や地域(家族・行政)への認知症に関する研修会の参加の呼びかけ等の活動の実施		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催され、助言・意見も頂きサービスの向上に活かしています。医療機関の出席は役立つ意見もあり、家族や行政との交流にもつながっています。	当別町福祉課担当、包括支援センター、町内会長、民生委員、医師、消防署、家族、事業所関係者が参加し運営、防災、健康について話し合い、検討された内容は運営に反映している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業・研修会や行事にも職員は積極的に参加し情報提供を得られている。又、判断に迷いがあつたりすると、直接聞く事できる関係は築かれている	行政担当者とは相談、意見交換、情報交換できる関係にあり、行政主催の会議や研修会に参加協力し町の高齢者福祉の向上に共に取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会が実施され、「郷」では月に一度の職員会議でケアを振り返り、職員同士確認し、取り組んでいる	身体拘束についてはマニュアルを整備し研修を行い毎月の会議で検討している。玄関は施錠せず安全を確認しながら自由な雰囲気大切にケアを実施している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修会にも参加し、職員会議でも話し合い、ケアのあり方に注意し、間違った行為がないように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員との話し合いの場はないが、管理者は研修会に参加し、必要時には活用できるように努めている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には十分な説明をし納得が得られるまで対応しています。現在まで契約に関しての苦情・トラブルはありません		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんとは関りを深め、傾聴し職員間で情報を共有し援助につなげている 又、玄関にはご意見箱を設置し管理者管理し問題あれば職員に報告し、共有・改善に努めている	面会時には要望や意見の取得に努め、運営推進会議では家族の意見や要望を積極的に吸い上げ運営に反映させている。意見箱を設置し外部苦情申し立て機関を案内している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見はあまり見られなく、話合われた記録はないが、提案等あれば、時間を設ける体制はできます	毎月のカンファレンスの中で職員の意見を聞く機会があり、又法人実施のアンケート調査で職員の意向や提案を把握し、運営に反映するよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は職員全員がリフレッシュ休暇を取れるように調整し、必要な衣類(靴下等)の支給も実施。少しでも負担がないように努め、状況に合わせて見直しもしている。資格取得・人事考課によって手当や昇給もあり意欲向上につながっている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等職員の意向に添って機会を確保している。職員のスキルにあった外部・内部研修を提供し、参加している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は町内の関連事業所に認知症に関する研修会の場を提案し、参加を得ています。又、GH協議会へ加入し情報交換し、来年度は地域包括の支援を得て、町内のGHとの連携体制を確立する予定です		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面談し本人・家族から情報を収集し、ご本人が少しでも安心出来るように配慮している。また、情報は職員全員が共有している。希望があれば、事前に過ごしてみるとか、見学等も検討できます		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談で心配な事、求めている事を話してもらい、ホームの様子や普段の生活風景等を伝え、どのような対応か、納得できるようにお話をいたします、家族様とは十分話し合いたいと思います		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者さんの状況を確認し、他事業所との連携を取り、必要な支援が提供できるようになってます		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活活動を中心に共に「笑ったり、怒ったり」しながら共に過ごせる時間を共に感じながら関係を築いています		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者さんの心身の状況を伝え、理解を得てもらうように努めて、介護方針の相談もする事もあり、家族の協力を得て、適切なケアの提供ができるように努めています。又、行事への参加の呼びかけをし共に支える関係を築いてます		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者さんも忘れ掛けている記憶で、関係は少しずつ薄れているが、来訪者には気兼ねなく又来られるように、明るく対応しています	家族や友人など大切な人との交流が続けられるよう支援し、又来訪者が事業所内で利用者と共にゆっくり寛げるよう配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員はその日の入居者さんの心身の状況を把握し、その方が混乱したり、又不穏になってもどのように対応したら良いが考え、支援できるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約後であっても相談があれば、いつでも職員全員が対応できるように体制はできている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の情報を確認し、出来る事を大切に、困難時には本人の思いを受け止め、職員で検討しあう事もある	日頃の会話から個々の希望や意向を引き出し、家族や職員情報、個人記録等を参考にして本人の思いの把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族または、関連事業所からの情報を元にフェイスシートを作成し共有し、実践に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特に、身体・心身の状況は記録し、看護師の指導・助言があり実践できる連携がある		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員全員が意見交換できるようにカンファレンスの実施をしてケアの課題や見直しができるようにしている。毎月評価し記録をしている	本人、家族の意向を尊重し、担当者を中心に職員全員で意見交換し作成している。毎月モニタリングを行わない状況に応じた介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはケアプランも掲載し、いつでも確認できるようにしている。個別記録の他には職員間の送りノートも活用しプランの修正等に活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば、職員で検討し思いの実施に向けて支援できるように取り組みます(例えば温泉宿泊等)		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望があれば、ボランティアさんを利用し麻雀・新蕎麦の会等入居者さんの思いの実現に向けて、多少リスクも感じながらも満足が得られる支援に取り組んでいる		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的を受診し、入居者さんの身体・心身の状況を報告し適切な対応ができています。家族の同行もある。連絡体制はできている(状況に応じて往診体制もある)	利用者希望のかかりつけ医への連絡、通院支援を行なっている。提携医は往診して健康管理を行い、訪問歯科、AED設置等適切な医療支援がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル表を作成し、日々の変化は確認しやすい状況を作っている。急変時も連絡体制はできている。職員は助言・指示貰える連携がある		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族との連携を取り、情報を共有しながら、早期退院に向けて支援し又退院後も医療機関との連携も密にし今後起こりうる変化にも対応できるように努めます		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在まで終末期の経験はないが、今後は応じる為にも体制の確立が必要と思います。その為にも職員の体制作りや家族との話し合いの場も必要で、協力医との連携体制に取り組みたいと考える	「重度化した場合の指針」を文書化している。状態に変化が生じた場合は医師、看護師、家族、関係者と話し合い、連携をとり、情報・方針を共有し納得の行く支援ができるよう努めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師・消防署の指導を受けて、定期的に職員の勉強会が実施されている。緊急時は看護師に指示を貰える体制はできている		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害あれば隣家の大家さんの協力は得られる環境ではある、連絡体制もできている	年2回消防署員立会いのもと避難訓練を利用者参加で実施している。スプリンクラー、自動通報装置、火災報知器が設置され避難経路の確認も行なっている。	運営推進会議に消防署員の出席があり、火災防止、避難訓練について指導を得ている。隣家の大家さんの協力はあがるが、近隣住民の避難訓練への参加がなく協力を働きかけているので今後期待したい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは特に注意し入居さんが不快な気持ちにならないように配慮し、間違った対応があった時は職員同士話合って日々考えている	一人ひとりの尊厳を損ねないよう職員は言動に配慮して接遇している。個人情報に関する資料は適切に管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中であった希望等、職員はくみ取り工夫提供している。又洋服を選ぶ食事を選ぶとか些細な事だが決定の場を働きかけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居さんの体調によってその日の流れが決まる事を優先として、支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室の利用や家族の協力を得て馴染みの美容室を利用される方もおられ、満足できている支援になってます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はその日に決め、苦手な食事は事前に調べて、その方が美味しく食事が出来、食べやすく、少しでも自力摂取を支援し、片付けも一緒にしています	利用者の好みや摂取し易い食事形態に配慮し献立を作成している。下準備や後片付けを共に行ない、共にテーブルを囲む食事は楽しみとなっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には水分量をチェックします。飲水(嗜好にあわせる)介助もします。制限が必要な方にも対応し、基本は美味しく、食べてもらえる支援をします		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科の利用もあり、すぐ治療が必要な時にも対応できています		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者全員の排泄パターンを記録し、把握して、トイレでの排泄に向けて、簡単にオムツやパナツの使用にはならないように、必要時は職員で検討し自立支援を行っている	排泄記録や動作、表情から個々の排泄パターンを把握し、さりげなく誘導しトイレでの自立排泄を支援している。家族からは排泄の自立ができたことを感謝されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	すぐに内服とはならないように、食事量や水分量・乳製品等を検討し、看護師との連携もと、入居者さんに負担のない状況の提供に取り組んでいる		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や曜日の指定もない、毎日の提供も可能です。香り湯もあり、入居者の希望があれば一緒に入浴する事もあります。希望があれば、近隣の温泉に行く事もあります	利用者個々の希望、タイミング、体調に合わせていつでも入浴することが可能である。入浴剤を使用し、時には日帰り温泉を利用する等入浴を楽しめるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせて休まれています。就寝後でも不安な訴えがあった時は傾聴し安心できるように支援します		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更があれば、職員が周知できるように努め、必要あるのか？と思われる内服には担当医に相談し少しでも内服が少なくなるように支援している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	五感が刺激されるような、行事の実施や昔を思い出す事が出来るような会話等職員によっては多少の違いはあるが、全員同じ気持ちで支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	そのような希望があれば、家族の協力を得て、職員検討し実現に向けて実施します。又、その日の気分や天候で、出かける事も良くあります	個々の希望や体調、気候に合わせて外出支援している。散歩、外食、買い物、畑作、又隣家で飼っている山羊は利用者に懐き外での餌やりを楽しむことができる。花見、温泉旅行、苺狩り、紅葉狩りの外出行事がある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は現金所持の希望はありません。ご本人が混乱したりする事もあり、家族の意向もあります。買い物では支払いの介助をする事はあります		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも対応しますが、状況(深夜)によっては後から対応もあるとおもいます		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	来訪者にも不快感がないように、特にゴミ等の処理や置き場所については時間等も配慮している。入居者さんには不快な音や入居者さんが誤解をしないように職員は行動・言動するように、気をつけている。又、室内は季節の飾りをして何かを思い出せるように工夫している	居間は広く明るく南側には広いテラスが設置され、夏季には椅子を置きお茶タイム等に利用している。室内各所に花の写真や利用者の作品、童人形などが飾られ家庭的な雰囲気があり、温湿度、換気も良好で居心地が良い。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一緒に過ごせるスペースと一人で座り読書等ができるスペースも職員が把握できる位置にあり、ですが独りを感じれる位置もある(読書用に書籍も準備ある)		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた品、見慣れた備品でその方の生活が見える方もいらっしゃいます。家族さんが泊まりを希望される時は寝具も準備できています	居室には使い慣れた家具や生活用品を置き家族写真を飾るなどその人らしく過ごせるよう工夫している。程良く整頓され清潔が保持されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すりも設置し、バリアフリーではあるが、まだできる能力を活かせるように職員は自立を考え見守りもしながらその方の安全な生活を送れるように提供している		